

## 人権擁護協会・会長・JOC 西村部長の会話

会長：オリンピックで行くとか行かないとかの相談があり

丸山、森との間で揉め事があり

丸山が衛藤征四郎を呼んできた、我々は衛藤議員がテコンドーの会長になるのを反対した、我々は福田（元総理）議員を推薦した。丸山がどうしてもカムバックしたいから衛藤議員を入れた。

衛藤議員の後を受けて吉田が会長になった。この時衛藤議員に対しテコンドー協会の会長の金原氏が個人で献金していた、その金原は韓国籍で献金は違法である。

JOC からテコンドー協会に対し（専任コーチ）個人の口座にお金が振り込まれている、金原会長が選任コーチにしてやるから、JOC から振り込まれるお金を一割取って持ってこいと約束で、四年間お金を金原がお金を（専任コーチの謝金）受け取った、金原会長が 23 年 4 月 23 日の総会、理事会でハッキリ貰ったと発言している、貰ったお金（謝金）はテコンドー協会に入れた。何ら問題は無いと発言している。

西村：はい、コーチに（専任コーチ）お金が個人に振り込まれています。

会長：JOC からテコンドー協会に 23 年 2 月 21 日に問い合わせがいつている、コーチに対し支給した活動資金の報告がきている。

西村：それは総務から書類がいつていまして、手違いで書類がいつたみたいですが、それは取り消します。と書類を出したと聞いている。彼は会計責任者ですから。

会長：何をもって総務部長の名前で出されたのか。

西村：それは分かりませんが。

会長：それは JOC 総務部長の書類ではなく、日比野さん個人で出されたのかな。

西村：それは本人と話をしていないので分からないですけど。

会長：この文書は JOC のハンコも押してある、(財団) 日本オリンピック委員会総務部長とハンコ押してある。これは個人のモノではない。専任コーチに支給した活動謝金の一部が第三者に渡っているとの情報が寄せられている、事実か否か回答願います

西村：それはそうですね、その文章からするとですね。

会長：この文章に対してテコンドー協会から答えが JOC に対していく訳ですね。

何も無いのにある日突然、こんな文章をテコンドー協会に送る訳が無いわけでしょう。何かがあるから出している訳でしょう。日比野さんが勝手に出している訳ではないでしょう。組織というのは部長だから、勝手に個人で出来る訳ではないでしょう。JOC のメンバーであるテコンドー協会に出している訳ですから。出さなければいけない何かがあった訳ですよ。信憑性があったから、こういう JOC からの文章が出ている訳です。これ、あの文章間違っていたから、返して下さい、そんなのやってみて言いつ、それはちょっと違うんじゃない、そこん所を聞きたいんですよ。金原会長が全て認めている、それも総会、理事会で三人から謝金を貰ったと、三分の二を貰い協会に入れたと、協会にはお金は入れてないと返事を貰っているが、金原会長が懐に入れたのはかなりのお金になるけど。このお金は我々の税金でしょ、税金を勝手に金原会長が懐に入れるとは、それは許されない。JOC から行かれた人に電話したら「今調査中です、チャンと公表します」と言っていた。テコンドー協会がダラダラするのであれば、JOC と話をしそれでもダラダラするのであれば、文部科学省と話をし「我々の税金を横領するとは何事だ」と抗議する。当たり前の事。

西村：それは税金です。

会長：そうですね、税金を金原会長が懐に入れる、そんな事が許されるの。

西村：それは「ダメです」問題です。我々の JOC は基準というのがありまして、先ず、法人格を取っているか、法人格を取っている場合には約款、定款、がありまして我々には一つの人格の尊重を先ずせざるをえない、関係にあつて、その中の揉め事、論争をその中でチャンと解決をして下さい、ということが大前提です、今 JOC 加盟団体の中で、係争中、裁判中が二つありまして、クレーとスキーが係争中です、当事者間の話合い又は理事会の話し合いにもとづくものである、中で自助努力をしてもらいたい、JOC はだからといってほっとく訳では無いですけど、あくまでテコンドー協会の総会・理事会で話し合いどのような結論になったのか、尊重すべきテンです、その結論は分かりませんが、活動実態等をチャンと報告をして頂く事が大切。

会長：この理事をみてどうですか、同じ県から二名出ている、28名の正会員中で全て金原会長一派で理事会を固めている。これがまともですか、まともな事が罷り通らない。

西村：先ずは理事会でチャンとして貰いたい。どういう解決策をだすか。

会長：選任コーチに税金に謝金が渡り、将来の子供達の為に一生懸命やって貰う事は良い事だけでも、その大切な国民の税金がコーチに渡らないで、金原会長の懐に入っているということが問題なんで、コーチにかたちとしていっているが、本人にお金がいっていない、これはコーチ本人から出た事である、「コーチが喋った」この事が問題です、第三者が喋ったのではない、本人が署名して提出してある。  
ここに出ている理事の人間は皆知っている、金原会長が公金横領したと。  
この事実を誰がみても可笑しいのに、可笑しいと思わないで理事が進行していて、誰もこの事について質問もしないし、承認されている、指摘した人間が「資格停止」「一年間」になっている、こんな事が罷り通るとは、JOCからテコンドー協会の専任コーチに対し質問すれば分かる事ですよ、呼び出して聞いて下さい。

西村：まだテコンドー協会には話をしてないから、これから聞きます。

会長：アドバイザーの人が全く金原会長が言う事聞かないと言っている、JOCなりに行き話をされたらいいと、又文部科学省に行き話をすればいいという事になっている。

西村：困りましたね。

会長：JOCは何にも出来ないというのであれば、しょうがないです。国と話をしましょう。

西村：ハッキリ言って初めてに近い話なんで我々としたら、どのようにしたらいいか、上と相談をしながら、進めたいと思います。

会長：きょうはこういう事があるという事を話しに来た訳です。こちらはこちらで国と打ち合わせしながら、やって行きますから。一番大事な事は、我々の税金だという事を分かっている下さいね。

我々がここのJOCに来るという事は、チャンと証拠を持ってきているという事です調査宜しくお願ひします。テコンドー協会の内部の資料が来ているという事ですからね。テコンドー協会の揉める事を避ける為にはどうするか、よく考えて返事下さい。1.渡った期間と金額。2.渡った第三者名 3.渡った金額の支出先とその証拠書類我々は全て持っている。

西村：調査してご連絡いたします。